

# 令和4年度 多摩市立連光寺小学校 学校経営方針 ～ 連 光 寺 D N A ～

多摩市立連光寺小学校

校長 関口 寿也

止むことのないコロナ禍であるが、学校の教育活動は制限されつつもしなやかに教育活動の方向や方法を変化させ実施してきた。この時代を生きる子供たちの時間は有限であり、UNSTOPPABLEである。どんな世界になろうとも、いや、だからこそ私たちは教育を進めなければならない。SDGsが求める17の目標に2030年までに少しでも近づこうと、これまで誰も経験したことのない教育活動を開拓していくことが、学校という組織が現在の人材育成において課せられた使命である。学ぶとは、知識を得ることではない。人間を変えるということである。生き方、考え方、生活の仕方を変えるということである。それがまったなしの状況であることは、誰もがそこはかとなく感じるところであろう。凶らずもこのことはコロナ禍によってより鮮明となった。私たちは、子供たちに見せ、考えさせ、学ばせなければならない。「何を学ばせるか(課題)」「どうやって学ばせるか(ESD)」「何を身につけさせたいか(SDGsの達成)」を真っ正面から捉え、連光寺DNAを子供たちと共有していこう。私たちにとって、それこそが今の時代を突き破り、未来という新しい地平を切り開く道筋なのだから。

## 1 教育目標

人権尊重の精神を基盤として自ら考え学ぶ力を身に付け、持続可能な社会の担い手として主体的に生きる人間としての資質・能力・態度を高めるために、次の目標を設定する。

- |   |
|---|
| ◎考えてやりぬく子<br>主体的に学び、高め合いながら考え行動できる児童              |
| ○明るく思いやりのある子<br>多くの人とかかわり、自他を尊重しながら行動できる明朗で心豊かな児童 |
| ○たくましくじょうぶな子<br>体力向上と心身の健康の保持増進に努める強い意志と体をもった児童   |

## 2 目指す学校像

### (1) 児童が「もっと伸びたい」と実感できる学校

児童が、学びや人間関係において、「賢くなった」という振り返りや「思いやりの心」に気付くことが自己の成長を実感する時である。これは児童の学習意欲、生活意欲に直結する。その継続から、児童自らが「もっと伸びたい」と実感できる教育活動を推し進める。

### (2) 保護者・地域の方にとって、安全・安心で信頼できる学校

学校、保護者、地域の共通する願いは、子供たちのよりよい成長である。その視点を見失うことなく、迅速で誠意のある対応、相談しやすい雰囲気、児童の教育への協働を心がけて信頼を高める。学校、保護者、地域が思いを一つにした教育活動を進めていく。

### (3) 教職員にとって、やりがいをもって協働できる学校

教職員の喜びは、指導による児童の成長を体感することである。教職員として理想と信念を欠くことなく指導を充実させ、児童の成長のために主体的に協働する意識をもち邁進する。

## 3 指導に関わる具体的な取り組み

### (1) 考えてやりぬく子（「多面的思考力」「問題解決力」「郷土愛」の育成）

#### 【基礎学力】

- ① 学力向上委員会を中心に、授業改善推進プランを基にした指導方法の工夫改善を常に行い、基礎学力の向上を図る。
- ② 「できるようになったこと」を実感できる学習の振り返りを恒常的にを行い、児童の自己評価力（メタ認知）や自己肯定観を高める。
- ③ 全学年で、学年内の恒常的な交換授業を5月を目途に開始し、児童観、授業観、教材観を養い授業力を向上させ、働き方改革の一助とする。OJTを考慮し、教科は学年で決定する。

#### 【読書指導】

- ④ 国語力はすべての学習の要である。行事時数として確保した読書指導と、朝読書や保護者による読み聞かせも活用し、児童の読書意欲を高め、読解力の向上を図る。
- ⑤ 読書活動によって身に付けた言語能力を、各教科等と連携して効果的に充実させ、問題解決力に不可欠な思考力、判断力、表現力の向上を図る。

#### 【SDGs, ESD】

- ⑥ 総合的な学習の時間を中心とした全教育活動において、環境資源、文化資源、社会資源を存分に用いて探究活動・ESDを実践する。
- ⑦ 探究活動・ESDは、カリキュラム・マネジメントや行事との連携を通してホール・スクール・アプローチで進め、児童の多面的思考力・問題解決力を計画的に育てる。
- ⑧ 探究活動・ESDの実践において、タブレット端末、e-ポートフォリオ、デジタル教科書を有効活用する。
- ⑨ 特に第3学年と第5学年においては、「総合的な学習の時間」の新しいプログラムを遂行する。
- ⑩ 時代の潮流を敏感に拾い上げ、授業課題として取り入れブラッシュアップを行う。
- ⑪ 全児童が家庭学習として自主学習に取り組み、主体的に学びに向かう姿勢を身に付ける。（週1程度）
- ⑫ 授業における児童の学びの成果をSDGsと関連付けて価値付け、郷土を愛する心情を基にした、持続可能な社会づくりに向けた人材育成を図る。
- ⑬ 児童自身が「賢くなれた」「世界の役に立てた」とメタ認知できる自己有用感を育む。

### （2）明るく思いやりのある子（「豊かな情操」「人間関係形成力」の育成）

#### 【道徳】

- ① 人権尊重の精神を基に道徳科授業を充実させ、「考え、議論する道徳」を実践する。「豊かな心」を育むことでいじめ防止も図る。
- ② 道徳指導で扱った内容を生活・総合や特活等、全教育活動の中で実践する。

#### 【生命尊重】

- ③ 全教育活動を通し、他者との関わりを深め、自他の生命を尊重する態度を身に付けることで、「生きる力」を育み、いじめ・体罰を根絶するとともに不登校・自殺を未然に防止する。
- ④ 生き物の飼育や触れ合いを行い、優しさや思いやりの心を育てる。

#### 【特別活動・生活指導】

- ⑤ 委員会活動やクラブ活動、行事、異年齢交流等において、児童のアイデアを活用し、児童に考え判断させることで主体性を高めるとともに、自助・共助につながる他者と協力する態度やコミュニケーション力を育む。
- ⑥ 1年生で「かがやきプログラム」を活用し、ソーシャル・スキル・トレーニングに取り組む。生活習慣の確立や社会性を育成することで規範意識を高める。SSTは行事時数として、4／

7～29に朝の1／3時間を使い実施する。

- ⑦ 優しさと厳しさのある生活指導で、TPOに応じた「聞き方、話し方、行動」、早寝早起き、時間を守る意識、ネットリテラシー等、基本的な生活習慣の確立と、規範意識を育成する。

### (3) たくましくじょうぶな子（「自己管理能力」「くじけない心」の育成）

#### 【心身の健康】

- ① 集会や休み時間の外遊び推奨、保健指導等、発達段階を考慮した「一校一取組」「一学級一実践」を組織的・計画的に進め、体力の向上や心身の健康の保持増進を図る。
- ② 特別活動を中心に全教育活動において「あきらめない心」「やりぬく力」の育成を図り、キャリア・パスポート「あしあと」を用いた振り返りを行う中で自己の成長を確かめ、自己肯定感・自己有用感を育成する。

#### 【危機管理能力】

- ③ 危機管理意識を常にもたせ、廊下歩行、登下校の行動規範、交通安全、不審者対応はあらゆる機会を用いて繰り返し指導し、対応力向上を図る。
- ④ 毎月のいじめ防止委員会を中心としたいじめの早期発見、迅速な対応、継続した見守りにより、児童の心身の安全への取り組みを進める。
- ⑤ 月毎のアレルギー対応委員会を中心に、複数の目でアレルギー対応のチェックを実施する。特に、食物アレルギーにおけるアナフィラキシーショックは絶対に起こさない。
- ⑥ スマートフォンや通信のできるゲームへの依存を防ぐため、随時啓発活動を行う。依存は不登校に直結する。また、学校として児童に不必要なスマートフォンの保持は勧めないと常にアナウンスしていく。

### (4) 教育目標の達成に向けたその他の事項

#### 【特別支援教育】

- ① 特別支援教室を中心に、全教職員や関係機関との協力により、SDGsの「だれ一人取り残さない」という理念に基づき、合理的配慮の実践によりノーマライゼーションやインクルーシブ教育を推進する。
- ② できるだけ早い時期に児童の特性を発見する。担任や専科、特別支援教室担任、スクールカウンセラー、特別支援教室心理士が見極め、毎月の校内委員会で検討する。
- ③ 校内委員会で検討する児童、検討予定の児童については、特別支援教室担任、スクールカウンセラー、特別支援教室心理士が専門的見地から授業観察を行う。
- ④ 校内委員会で特別な支援が必要と判断された児童について、特別な支援の手立てを保護者と相談し講じる。早期の支援は、児童の成長を促し、二次障がいや成長過程におけるトラブルを未然防止する。
- ⑤ 支援を必要とする児童に、待ったはない。特別支援教室の説明、見学、体験等、随時行う。
- ⑥ かがやき学級教員が、通常級担任に教室内での合理的配慮のアドバイスを行う。

#### 【保幼小連携・小中連携・地域連携】

- ⑦ 幼稚園や保育園、及び中学校と連携し、小1プロブレムや中1ギャップの解消を図る。また、生活指導及び特別支援教育の情報交換とともに、教育課程上の連携を行う。
- ⑧ 学校運営協議会や地域学校協働本部を活用して、学校と家庭・地域が一体となった取り組みを全教育活動で実施する。またその成果をコミュニティ・スクールとして積極的に発信し、家庭・地域の教育力の向上を図る。